

2025年度(令和7年度)事業報告

障害者支援施設 木埋学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 生活介護事業 30名
- ② 施設入所事業 30名
- ③ 短期入所事業 2名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

- ① 生活困窮者就労訓練事業 1名

(3) 地域における公益的な取組

- ① 町内の清掃活動(イオン清掃)
- ② ペットボトルキャップ回収(キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付)
- ③ 障がい者の学び支援事業「ゆふがきらきら教室」の参加

(4) 運営方針

利用者様の人権尊重を基本理念とし、安心・安全で健康的な生活を継続できるよう、一人ひとりの状態やニーズに応じたサービス提供に努めました。

相談支援事業所と密接に連携しながら、サービス等利用計画に基づく個別支援計画を策定し、ご本人およびご家族の意思、生活課題、ニーズを丁寧に把握したうえで、適切な支援の実施に努めました。

また、協力医、嘱託医、看護師、管理栄養士、担当職員が多職種で連携し、施設全体で情報共有を図ることで、健康管理および栄養管理の充実に努めました。

事故防止の観点からは、ヒヤリハット報告や事故報告書の検証・振り返りを継続的に行い、職員の安全意識を高めるとともに、利用者様がより安心して生活できる環境づくりを進めました。

さらに、開かれた施設運営を推進するため、ご利用者様、ご家族、地域住民、市町村関係者を招いた地域連携推進会議を開催しました。会議では、令和8年4月から施行される地域移行支援の取組について説明を行い、入所施設における地域生活への移行支援の考え方や、本人意思を尊重した暮らしの選択、相談支援事業所や地域資源との連携の必要性について共有を図りました。

あわせて、災害時における地域のセーフティネット機能としての役割を果たすため、福祉避難所としての受入体制や備蓄、開設時の対応手順、地域住民・市町村との連携体制についても説明を行い、施設が地域福祉資源として果たすべき役割への理解促進に努めました。

これらの情報共有を通じて、ご家族や地域の皆様との信頼関係をより一層深めることができ、地域に開かれた施設運営の推進につながりました。今後も毎年度継続して取り組み、地域共生社会の実現に向けた連携強化を図ってまいります。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1)職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	施設内の情報の発信（達成率 50%）
現状と課題	・施設内での生活の様子や行事参加など伝えられる機会が少ない。
取組の方向性	・SNS での発信（同意了承のみのご家庭） ・学園だよりでの発信（同意了承・却下の双方のご家庭へ）
取組の成果	・SNS での発信については行事等行っている割に投稿頻度は少なかったと感じています。行事に限らず、地域貢献などの場面も発信していきたいと考えています。学園だよりも法人理念・事業所目標・行事計画などを入れ込み、ご家族へ周知していただく工夫をしていますので、今後も継続していきます。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	リーダーシップ力の向上（達成率 80%）
現状と課題	・指導を行う中で、振り返りを行う時間（面談）がうまく取れていない。
取組の方向性	・中堅職員自らの役割を理解し、責任を持って業務にあたる必要がある。
取組の成果	・リーダーシップ力の向上に向けた実施施策として、中堅職員が自らの役割を理解し責任を持って業務に当たる中、OJT を意識した指導・育成と業務改善に取り組みました。あわせて、チームリーダー研修など参加したことで実践面での手ごたえを得ながら、チーム全体の組織力向上につながっていると感じています。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	合理的配慮（達成率 80%）
現状と課題	・意思疎通が困難な利用者にも、多様な意思疎通の方法活用のスキルや合理的配慮に乏しい。
取組の方向性	・虐待防止委員会を中心に、啓発活動や研修会を継続し、人権意識へのさらなる向上に努める。また、個々の特性に応じた利用者支援の充実を図る。
取組の成果	・意思疎通に課題のある利用者への支援について、虐待防止委員会を中心とした啓発・研修の継続により人権意識の向上が図られました。あわせて、多職種での会議やミーティングを通じて意思決定支援の視点を取り入れた支援を実践しています。さらに、地域移行計画の

	活用により本人の意思を踏まえた支援の方向性が整理され、個々の特性に応じた支援の充実につながっています。
--	---

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	働きがいのある職場づくり（達成率 70％）
現状と課題	・残業が少なからず改善されているが、今後も継続していきたい。
取組の方向性	・事業所全体で各業務内容・作業手順の見直しや改善を進め、時間外労働の縮減や有給休暇の取得等の向上に努める。
取組の成果	・特性の強い短期入所利用者の受け入れ時には、必要に応じて職員配置を手厚くするとともに、繁忙時間帯における業務負担の偏りを軽減するため、タイムスケジュールの見直し・調整を行っています。

実施施策	健康経営の推進（社食の導入）（達成率 70％）
現状と課題	・職員の食事の偏りや金銭的負担が感じられる。
取組の方向性	・社食を導入し、事業所が支援することで、職員の金銭的負担が軽減されるとともに、日常的な行動で本人の意識や意欲に関係なく参画でき、バランスの良い食事提供を行う。
取組の成果	・健康経営の視点と連携し、管理栄養士が推奨する献立を参考に選択する運用とすることで、職員の健康維持・促進につながる取り組みとして実施しています。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	個別支援計画の充実（達成率 100％）
現状と課題	・利用者の意思・最善の利益を考えて、サービスの提供に取り組む必要がある。
取組の方向性	・他職種とのケース会議やモニタリングを実施し、状況に応じた支援内容の見直し・変更を進め、ご利用者一人ひとりの意思決定を尊重したサービスを提供する。
取組の結果	・最重度の利用者を含め、家庭的な関わりを意識した支援の中で本人の意思確認を丁寧に行っています。さらに令和8年度から実施される地域移行計画とのつながりについても視野に入れ、切れ目のない支援体制の構築に向けて検討を進めています。

実施施策	日中活動の充実（達成率 60％）
現状と課題	・重度化が進み、個別対応のご利用者が増えている。 ・活動ができるご利用者と困難なご利用者との差がある。
取組の方向性	・個別支援の強化 ・個々の特性に応じた活動の工夫
取組の成果	・全体的な活動は年々難しくなっており、障害特性により活動が困難なご利用者へは、個別的な支援を行っています。個別外出だけが、日中活動の充実と捉えず、全体的に ADL の低下も見られているため、丁寧に利用者との関わりを持つことも活動の一つとして職員へ周知しています。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	リスク管理体制の充実（達成率 60％）
現状と課題	・月 1 回の職員会議で、ヒヤリハットの内容・改善内容について報告を行い、周知しているため、今後も継続していく。
取組の方向性	・ヒヤリハットの傾向を分析し、具体的項目を設定し改善に取り組む。
取組の成果	・ヒヤリハットやインシデント報告書は業務改善の重要なツールと位置づけ、事故に至る前段階で職員間の検討を行い、未然防止に努めています。また、事故に至ったケースについてはインシデント報告書を作成し、速やかな報告・連絡を徹底するとともに、要因分析と再発防止の検討を通じて、組織的な課題解決と安全対策の強化に繋がっています。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域貢献（達成率 60％）
現状と課題	・定期的に行っている活動には参加しているが、新しい取り組みにまで至っていない。
取組の方向性	・キャップ回収・イオン清掃活動の継続 ・由布市が主催するゆふがきらきら教室への定期的な参加。 ・施設見学依頼の積極的な受け入れ
取組の成果	・ペットボトルキャップの回収活動に取り組み、改修したキャップをワクチン購入に繋げる仕組みに参加しています。本活動については、地域企業であるイオンとの連携のもと実施しており、キャップの対価が「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付されている。また、由布市教育

	委員会が企画する「ゆふがきらきら教室」への積極的な参加を通じて、障がいのある方の特性や日常の様子を伝える機会となり、障がい理解の促進につながっていると感じています。
--	--

(7) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	短期入所の受け入れ（達成率 80％）
現状と課題	・高等部卒業後の進路として、短期入所を利用しながら施設入所を希望されるご家族が増えている。
取組の方向性	・相談支援事業所・市町村との連携を継続しながら、短期入所率を上げていく。
取組の成果	・短期入所サービスを活用しながら在宅生活の継続を支える一助となる支援を実践するとともに、高等部卒業後の進路については、多機関と連携し多様な福祉サービスを提示しながら、さまざまな方向性を見据えた進路先の提案を関係機関およびご家族と協議・検討を重ねながら進めています。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	BCP（業務継続計画）の構築と周知（感染症及び防災対策） （達成率 80％）
現状と課題	・感染症及び防災業務継続計画の周知が職員に十分行えていない。研修会・訓練を通して、周知を行っていく必要がある。
取組の方向性	・緊急性や危険性がある場合における備品購入・修繕以外については、現場で本当に必要な経費なのか確認しながら抑制していく。
取組の成果	・感染症発生時の必要物品等の確保、感染症の予防と対応力を高めるための職員への研修を促し、感染予防の徹底を図りました。 ・災害発生時に利用者・職員は迅速に対応がとれるように、研修会や訓練を通じて意識向上や災害時への備えを継続して進めています。

実施施策	新築移転に向け、経費の抑制（達成率 80％）
現状と課題	・経費削減への意識の低さが感じられる。
取組の方向性	・緊急性や危険性がある場合における備品購入・修繕以外については、現場で本当に必要な経費なのか確認しながら抑制していく。

取組の成果	・新築移転に伴い経費の抑制を図る中、旧館を中心に増加する修理・修繕箇所について、緊急性や危険性を踏まえ、優先度を見極めながら段階的に対応を進めています。 また、利用者の生活環境の安全性と快適性を維持する観点から、日常生活への影響を考慮しつつ、必要な修繕を計画的に実施しています。
-------	---

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	報連相の徹底（達成率 80％）
現状と課題	児者併設の為、あらゆる情報が飛び交う中での報連相の徹底が疎かになっている。
取組の方向性	・組織の流れの見直し ・連絡を受けたら必ず現場職員・上司に報告するという流れを徹底させている。
取組の結果	・組織の流れを再確認するとともに、職員に必要な情報をしっかり周知させるよう指導職には徹底してきました。少しの漏れがあることはありますが、報告、伝達をしっかりと行うことに関しては職員の中でも定着してきています。引き続き継続してまいります。

3 目標利用率

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
生活介護	30名	83%	83%	83%	83%	83%	83%	83%	83%	83%	83%	83%	80%	82.8%
施設入所	30名	86%	86%	86%	86%	86%	86%	86%	86%	86%	86%	86%	83%	85.8%
短期入所	2名	20%	23%	19%	39%	15%	24%	15%	20%	20%	18%	22%	18%	21.1%

4 固定資産物品購入物

（単位：千円）

名 称	購入業者	執行額	購入日
なし			

5 修繕実施状況(大規模修繕を除く)

（単位：千円）

名 称	請負業者	執行額	完了日
旧館個室ドア取替工事(3部屋)	㈱JOAT	270	令和7年4月2日
旧館壁修理(2か所)	㈱JOAT	165	令和7年4月10日
給食課照明など取り付け工事	㈱中栄工業	59	令和7年5月16日

倉庫 2 階入り口冊子取り付け工事	㈱JOAT	421	令和 7 年 6 月 20 日
旧館廊下引き戸修理	㈱JOAT	49	令和 7 年 6 月 20 日
旧館居室床張替工事	㈱JOAT	99	令和 7 年 7 月 30 日
旧館居室ドア取替工事	㈱JOAT	96	令和 7 年 7 月 30 日
旧館居室ドア塗装工事	㈱JOAT	55	令和 7 年 7 月 30 日
旧館床張替工事(2 か所)	㈱JOAT	157	令和 7 年 8 月 26 日
旧館押し入れ工事	㈱JOAT	50	令和 7 年 8 月 29 日
旧館小便器取替工事(3 か所)	㈱JOAT	275	令和 7 年 9 月 1 日

6 大規模修繕実施状況

(単位:千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
なし			